

第38回 記者懇談会実施概要

1 日 時 平成18年7月5日(水) 15時～

2 場 所 100周年記念会館 第2会議室

3 内 容

(1) 研究発表(15:00～15:40)

・岡本哲和総合情報学部教授

発表テーマ「サイバースペースにおける選挙」資料1

・中原住雄工学部助教授

発表テーマ「ホログラフィによる交通情報伝達システム」資料2

(2) 質疑応答(15:40～16:00)

(3) 学内状況説明・情報交換(16:00～16:30)

① 平成18年度私立大学学術研究高度化推進事業

「学術フロンティア推進事業」の採択について 資料3

② 2007年度入学試験について 資料4

③ 早期卒業制度を利用した

文学部・大学院文学研究科5年一貫教育プログラムについて 資料5

④ 宝塚市教育委員会との連携協力について 資料6

⑤ 高校生のための関西大学心理学セミナーについて 資料7

⑥ サイエンスセミナーについて 資料8

⑦ 平成18年度教員向け夏休み研修講座について 資料9

⑧ 関西大学アイスアリーナの竣工について 資料10

⑨ 誠之館1号館解体跡地整備(アメニティ整備)工事について 資料11

⑩ 学長選挙について

4 大学側出席者

河田悌一学長、小幡 斉副学長、岡本哲和総合情報学部教授、中原住雄工学部助教授、他

5 参考資料

(1) 第170回 経済・政治研究所公開講座 チラシ

(2) 平成18年度 産業セミナーチラシ

(3) 関西大学アジア文化交流研究センター研究集会

「海からみた文化交流の歴史－東アジア海文明を考える－」 チラシ

(4) 関西大学現代GP講演会チラシ

(5) 関西大学通信第336号

以 上

サイバースペースにおける選挙

総合情報学部教授（2007年4月1日より政策創造学部教授）岡本哲和

【概要】

政党や政治家によるインターネットを通じた情報発信行動は、わが国でも活発になりつつある。すべての主要な政党が、そして多くの議員がウェブサイトを開設している。また、現時点での公職選挙法による制限にもかかわらず、ウェブサイトを開設している国政選挙の候補者は増加しつつある。今回の記者懇談会では、2000年から2005年における5回の国政選挙（2000年衆院選、2001年参院選、2003年衆院選、2004年参院選、2005年衆院選）を対象として実施した、候補者ウェブサイトについての調査およびその分析結果について報告を行う。

調査項目は、各候補者におけるウェブサイトの有無とその内容である。ウェブサイトの内容については、インターネットの4つの機能、すなわち「相互作用性」「情報提供」「プレゼンテーション」「アクセスの容易性」に注目して、候補者のウェブサイトがこれらの機能をどれだけ備えているかを数値データとして表した。

これらのデータを分析した結果として、インターネット空間が現実の政治の姿を反映しているという、いわゆる「通常化」の現象が、わが国においても進行しつつあることを示す。

【プロフィール】

関西大学法学部卒業後、同大学院法学研究科に進み、故山川雄巳名誉教授の下で政治学原論を専攻。修士論文のテーマは「戦時アメリカの科学技術政策と原爆開発計画」であった。本学法学部非常勤講師を経て1994年に総合情報学部に着任。2007年4月より、政策創造学部教授（予定）。博士（法学）。99年から2000年にかけてカリフォルニア大学アーヴァイン校政治学部にも客員研究員として滞在。現在の主要研究テーマは、情報管理政策の政治学的分析、そしてサイバースペースにおける政治家・候補者の情報発信行動。技術と政治との連関を扱っているという点で、修士論文執筆以来、研究上の関心は一貫していると考えている。また、公共政策の実証的分析にも関心を持ち、政策の波及過程や政策終了についての論文も発表。単著に『アメリカ連邦政府における情報資源管理政策』、共著に『公共政策学』などがある。日本公共政策学会理事。2007年6月より、同学会事務局長。趣味は音楽（ロック、ジャズなど）、特にギター演奏。

ホログラフィによる交通情報伝達システム

工学部助教授 中原住雄

【概要】

トンネル内に設置する通常の高さ 1.2m×横 4.0mの大きさの道路標識板を、高さわずか 0.3m (付属金具等を含む) ×横 2.0m以内の大きさの複数のホログラム群に置き換え、それを奥行き方向に設置することにより、通常より狭い空間断面積で通常の標識板と同等の大きさの像としてドライバーに見せるホログラフィ光学再生技術の開発をすることを目的としている。

《なぜホログラフィなのか》

よく橋の欄干の下の縦棒などに絵を書いて、斜め前方から見るとどの様な絵が描かれているのかが分かるものを見かける。しかしこの絵は見る位置を変えれば描かれている絵が分からなくなる。どの様な位置にいても同じ絵が見えるようにするには、現在では三次元再生技術の可能なホログラフィが最適と思われる。また計算機ホログラムを利用すれば、現実にはない物体像でも作成可能であり、大きな像も任意の位置に作成できる。このためホログラフィ技術を利用した交通情報伝達システムを開発することにした。

【プロフィール】

1974 年関西大学大学院修士課程修了、同年助手。応用物理研でレーザ加工やホログラフィ等研究。84 年研修員として大阪大学で、光と電子放射を用いた材料評価の研究を行い、90 年大阪大学より工学博士の学位を取得。96 年 4 月より助教授。93 年 8 月より 1 年間、在外研究員としてワシントン州立大学に留学。現在レーザ加工学会の理事・編集委員として活躍している。

学生時代は体育会バドミントン部に所属していた。現在は同部の顧問、関西学生連盟会長、全日本学生連盟副会長、(財)日本バドミントン協会評議員と全国展開中。静岡生まれの京都育ち、性格は気さく、明朗であり、学生の兄貴分といったところ。